

# 親から虐待で里子に

## ここにいるよ

### 沖縄 子どもの貧困

⑤

中学2年のアリサ(14)は、小学1年のころから、里親のマユミ(58)のもとで暮らす。

3歳のとき、母親に殴られ、血を流しているところを発見されて、児童養護施設に入った。

アリサの母親は高校を中退し、10代で出産、二十歳で離婚した。経済的に困窮し、慣れない育児に追い込まれていたようだ。暴力は、幼いアリサが家にあった食パンを勝手に食べたことがきっかけだったという。

児童養護施設でアリサに初めて会ったときのことをマユミは今も鮮明に覚えている。笑顔がなく、ぼーと遠くを見つめ、目を合わせようとしない。触れようとすると、「触るな、ばか、あっちいけ」と悪態をついて、拒絶した。

十分な栄養を取っていなかったのか、4歳に近かったが、体が小さく、2歳くらいにしか見えなかった。マユミは「この子を放っておくわけにはいかない」と、アリサを引き取った。

アリサは慣れてくると、マユミの愛情を求め、独占したがつた。寝るときも、出掛けるときもべったり。マユミのおなかから「オギャー」と生まれるまねをしてよく遊んだ。

アリサは後に、手紙やメールでやりとりをするようになった。実母から「お金がないのが一番苦しかった」と聞かされた。「高校中退じゃあ、働き口もあまりなかったはず。がんばって大学に行っていたら、お母さんにも自分にも、違う未来があったか

もなってると思う。私は子どもをちゃんと育てられるようになってから結婚したい。お母さんのようにはなりたくない」

アリサは今、塾に通いながら、勉強に励んでいる。児童福祉法



手をつなぐアリサ(左)とマユミ。アリサはマユミの身長を追い抜いた

## お母さんのようになりたくない

は「児童」の定義を18歳未満と規定し、里親家庭にいられるのは原則18歳までと定めている。

アリサは基本的に高校卒業後、家を出なければならぬ。「兄」たちは、「お前に残してあげられるのは学力だけだ」と言っ

て、熱心に勉強を教えてくれる。マユミはアリサのほかにも、児童養護施設や里親家庭で育った子に関わってきた。愛情不足からか自己肯定感が弱く、「がんばっても、どうにもならない」と意欲を失い、施設や里親家庭を出た後に生活困窮に陥り、「貧困の連鎖」からなかなか抜け出せない子も多い。

アリサは今、成績が伸び、いいことが上達して、回りからほめられ、自信をつけてきている。医者、音楽の先生…、中学生らしく夢はいろいろ変わるが、「将来、人を助けられる人になりたい」と話す。

マユミは「今のうちに学力や基本的な生活習慣を身につけ、貧困の連鎖を断ち切ってほしい」と願う。

(文中仮名)  
「子どもの貧困」取材班・高崎園子 || 火々木曜日掲載

記事に関するご意見、情報をお寄せください。

ファクス：098(860)3483 メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp